

継承の形 ヘラルト・ダフィットの<キリストの洗礼三連画>をめぐって

蜷川順子（関西大学）

ブリュッヘのシント・バシリウス聖堂下堂（現聖血聖堂クリプト）にあった<キリストの洗礼三連画>（ブリュッヘ、市立美術館）は、19世紀末のブリュッヘで美術史研究のために徹底的な古文書調査を行ったウィールにより、彼が再発見した画家ヘラルト・ダフィットの作とされた。また彼は、この三連画が同聖堂の法政務官兄弟団の礼拝堂に寄進された際の契約書とみなされる1520年の文書を発見し、その記述を基に、三連画両翼内部に描かれた寄進者の家族を、ヤン・デ・トロンペスとその最初の妻エリザベト・ファン・デル・メールシュとその子供たち、外部に描かれた女性寄進者を、第二の妻マグダレーネ・ルーラント・コルディエールスとした。その後の研究を経て、一般には、三連画内部は1502年以前に描かれ、外部は1502年から1510年までの間に描き加えられたもので、その制作を寄進者は、自らの家族を記録するために、既に知遇を得ていた画家ダフィットに依頼したと考えられている。

しかしながら、寄進者が没した1516年から20年までの間に、この三連画がどこに置かれていたのか、何故20年になって寄進されたのか、何故「キリストの洗礼」が中央画面の主題として選ばれたのかなど、多くの問題が未解決のままである。

本発表では、ウィールがほとんど触れることのなかった古文書を仔細に検討することによって、寄進者夫妻の一人息子であったフィリップが極めて病弱だったであろうこと、および、ダフィットによる現実再現的な肖像によっても、それがはっきりと記録されているように思われることを指摘し、この三連画が彼の成長祈願のために制作された可能性が高いことを論じる。作品が寄進された1520年は彼の没年にあたるので、三連画の所有権は、その時までおそらく彼にあったと考えられる。

「キリストの洗礼」という主題が選ばれたのは、これが、寄進者ヤンの守護聖人である福音書記者ヨハネと同名の、洗礼者ヨハネの最も重要な物語であることに加えて、イエスが愛する息子であることを神が最初に示した場面でもあるので、成長祈願にふさわしい主題と考えられたのであろう。画面にはさらに、成長や子孫繁栄に関連するモチーフが、巧妙に描きこまれている。また、イエスが言わば洗礼者の継承者にあたる点も重要である。このことに関連して、画面で、父と息子、母と娘たち、姉妹たち、第一の妻と第二の妻が、互いに非常に良く似た服装で描かれていることも注目される。かつて、シャルル突進公が男子継承者を遺さないまま突然の死を迎えたため、ネーデルラントでは社会的緊張が続いたが、それを身をもって体験した寄進者夫妻は、不安があればこそ、この三連画を通して一門の安定した継承を祈願したと考えられるのである。